

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

| 事業の概要 | | 平成17年度 | | 根拠法令・規程等 |
|--------|-----|--------|--------------|------------------|
| 事業開始年度 | | 平成17年度 | | |
| 総合計画 | 大項目 | 基本目標 | 03 | 地域文化と人が輝くまちづくり |
| | 中項目 | 基本施策 | 01 | 未来を支える人材を育むまちづくり |
| | 小項目 | 施策 | 02 | 小・中学校 |
| 事務事業名 | | 06 | 中学校運営支援事業 | |
| | | 担当課(室) | 学校教育課 | |
| | | 職・氏名 | 指導係長・小畑康弘 | |
| | | 電話 | 0869-64-1840 | |

| 事業の実施 | |
|--------------------------|--|
| 対象(誰・何に対して) | 市内中学校5校の全生徒 |
| 目的(何のために) | 市内の中学校に必要な教育支援を行い、中学校教育活動の充実を図る。 |
| 行政活動(どのような方法で) | 教育活動支援のための非常勤講師の配置、学力検査・知能検査・進路適性検査の補助、チャレンジワーク14や部活動などの教育活動の補助等 |
| 事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか) | 市内中学生一人一人が、自己理解を深めるとともに、生き生きと学校生活を送ることができる。 |

| 事業の実績 | | | | | |
|-------|------------------|----|----------|----------|----------|
| 活動 | 実施項目 | 単位 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 |
| | 市費非常勤講師雇用人数 | 人 | 3 | 3 | 4 |
| | 市費非常勤講師雇用時数 | 時間 | 2,160 | 1,350 | 1,125 |
| | 知能検査・進路適性検査実施人数 | 人 | 784 | 787 | 714 |
| | チャレンジワーク14事業参加人数 | 人 | 387 | 396 | 386 |
| | 中学校部活動補助金対象生徒数 | 人 | 1,167 | 1,173 | 1,127 |
| 実績 | 必要人員 | 千円 | 9,414 | 7,453 | 6,670 |
| | 事業費 | 千円 | 2,630 | 1,153 | 742 |
| 結果 | 国・県支出金 | 千円 | 330 | 330 | 330 |
| | 受・益者負担金 | 千円 | | | |
| 財源 | 市 | 千円 | | | |
| | その他() | 千円 | | | |
| | 一般財源 | | 11,714 | 8,276 | 7,082 |
| | 受益者負担比率 | % | | | |

| 結果指標① | 結果指標名 | 単位 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 |
|-------|----------------|----|-----------|-----------|-----------|
| | 市費非常勤講師雇用時数 | 時間 | 2,160 | 1,350 | 1,125 |
| | 対前年比 | % | 62.5% | 63.3% | |
| 結果指標② | 活動コスト | 円 | 3,248,000 | 4,318,000 | 3,791,000 |
| | 単位当たりコスト | 円 | 1,504 | 3,199 | 3,370 |
| 結果指標③ | 中学校部活動補助金対象生徒数 | 人 | 1,167 | 1,173 | 1,127 |
| | 対前年比 | % | 100.5% | 96.1% | |
| | 活動コスト | 円 | 1,051,000 | 1,156,000 | 527,000 |
| | 単位当たりコスト | 円 | 901 | 986 | 468 |

| 事業の成果 | | | | | |
|------------------------------|----------|--------|--------|--------|--------|
| 成果指標名 | 年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 到達目標値 |
| 学校からの要望に対する非常勤講師等の配置率(%) | 目標値(A) | 90% | 90% | 90% | 90% |
| | 実績値(B) | 66% | 54% | 45% | 到達目標年度 |
| | 達成率(B/A) | 73.3% | 60.0% | 50.0% | 23 |
| 成果指標設定の考え方・式や説明 | | | | | |
| 非常勤講師等雇用時数 / 学校からの要望時数 × 100 | | | | | |

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

| 事務事業の評価 | | 妥当性評価<A~E> | |
|---------|----------|---|--|
| 妥当性の評価 | 市の関与の妥当性 | <input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある | 判定理由・課題認識 |
| | 市民ニーズ | <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明 市議会でも質問をいただいている。 | 個々の学習状況に応じた指導・教育上の配慮を要する児童生徒への指導を充実するための教育環境の整備は、市として当然関与すべき事項である。課題としては、非常勤講師の配置、教育活動のための経費補助等、学校からの要望に十分対応できていない現状がある。 |
| 効率性の評価 | コスト | <input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている | 効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 |
| | 目的達成度 | <input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない | 前年度との比較で約16%の減額を行い、改善している。しかし、真に必要な人的配置等は当然行う必要があることから、コスト削減の対象になりにくい要素がある。 |
| 有効性の評価 | 市民参画度 | <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている | 有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識 |
| | 市民参画度 | | 個別の支援を必要とする生徒が増加している傾向に伴い、学校からの非常勤講師等の配置要望は年々増加している。しかし、その要望に十分対応できていない。 |

| 平成21年度の状況 | | 結果指標② | | 成果指標量 | |
|-----------|-------|-------------------------------------|-----|-------|------|
| 目標値 | 1,500 | 1,100 | 60 | | |
| 状況 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 |
| | | ○ | | | |
| 説明 | | 学校に対する直接事業費は20年度と同程度確保し、継続して実施している。 | | | |

| 総合評価 | | 評価区分<A~E> |
|---|--|-----------|
| 学力検査・知能検査は有効に活用され、個々の生徒に応じた指導に役立っている。また、部活動やチャレンジワークの補助金、教育活動の充実につながっている。今後も学校教育の充実を支える取組として、各学校の要望にできるだけ応えていく努力が必要である。 | | B |

| 平成22年度以降の方向性・内容 | | 結果指標② | | 成果指標量 | |
|-----------------|-------|---------------------------------|------|--------------|------|
| 方向性 | 1,500 | 1,100 | 60 | | |
| 状況 | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 |
| | | ○ | | | |
| 説明 | | 中学校の教育活動の基礎となる事業であり、現状維持で実施したい。 | | | |
| 改善がある場合 | 評価の視点 | 改善内容 | 改善時期 | 改善により期待される効果 | |
| | | | | | |